

○企業別タクソノミ作成ガイドライン（その2：IFRS適用提出者用） 一部改正新旧対照表

新	旧																								
<p>表紙</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">IFRSタクソノミ2011 対応</div> <p>1-2 前提となる文書</p> <p>(略)</p> <p style="text-align: center;">表 1-1 本書の前提となる文書</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">No</th> <th style="width: 95%;">文書名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>XBRL Specification 2.1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>XBRL Dimensions 1.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>FRTA (Financial Reporting Taxonomies Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>GFM (Global Filing Manual) Version: 2011-04-19</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>企業別タクソノミ作成ガイドライン (その1) *</td> </tr> </tbody> </table> <p>*: EDINETタクソノミ対応の「企業別タクソノミ作成ガイドライン」(2012年3月14日)を本書では便宜上「企業別タクソノミ作成ガイドライン(その1)」と表記します。</p> <p>2-1 タクソノミの全体像</p> <p>(略)</p> <p>IFRSタクソノミではInterim Releaseとして、IFRSの改正を取り込んだ版がIFRS財団のWebサイト(http://www.ifrs.org/Home.htm)上で提供されています。提出会社は必要に応じてこのIFRSタクソノミを使用することが可能です。<u>通常、Interim Releaseは新たな基準に対応するものですが、2011年8月31日付けのInterim Release「Common practice concepts」は、勘定科目の利用実績に基づく追加勘定科目のタクソノミです。「Common practice concepts」に関する情報は、http://www.ifrs.org/XBRL/IFRS+Taxonomy/Interim+releases.htmを参照してください。</u></p> <p>2-2 EDINETタクソノミ利用時の場合との主な相違点</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 連結財務諸表等と個別財務諸表等の区別について <p>IFRSタクソノミでは、連結財務諸表等と個別財務諸表等の区別を行う場合、報告書インスタンスにおいて設定するコンテキストで区別するのではなくXBRL Dimensionsを使用します。<u>ただし、連結財務諸表のみを作成する場合はXBRL Dimensionsの使用を省略できます。</u>XBRL Dimensionsに関する詳細は「6-2 XBRL Dimensions 関連の要素について」を参照してください。</p> ■ 注記表について <p>IFRSタクソノミでは注記表をXBRL形式で作成することが可能です。なお、既存のIFRSタクソノミに必要な注記表が存在しない場合、拡張リンクロールを新規に追加することで、任意の注記表を追加することも可能です。</p> <p><u>また、IFRSタクソノミで注記表として用意されている科目のうち、データ型が「monetaryItemType」である科目については、当該科目を財務諸表本表で使用することも可能です。</u></p> 	No	文書名	1	XBRL Specification 2.1	2	XBRL Dimensions 1.0	3	FRTA (Financial Reporting Taxonomies Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)	4	GFM (Global Filing Manual) Version: 2011-04-19	5	企業別タクソノミ作成ガイドライン (その1) *	<p>表紙</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">IFRSタクソノミ2010 対応</div> <p>1-2 前提となる文書</p> <p>(略)</p> <p style="text-align: center;">表 1-1 本書の前提となる文書</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">No</th> <th style="width: 95%;">文書名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>XBRL Specification 2.1</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>XBRL Dimensions 1.0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>FRTA (Financial Reporting Taxonomy Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>GFM (Global Filing Manual) Version: 2010-10-12</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>企業別タクソノミ作成ガイドライン (その1) *</td> </tr> </tbody> </table> <p>*: EDINETタクソノミ対応の「企業別タクソノミ作成ガイドライン」(2011年3月14日)を本書では便宜上「企業別タクソノミガイドライン(その1)」と表記します。</p> <p>2-1 タクソノミの全体像</p> <p>(略)</p> <p>IFRSタクソノミではInterim Releaseとして、IFRSの改正を取り込んだ版がIFRS財団のWebサイト(http://www.ifrs.org/Home.htm)上で提供されています。提出会社は必要に応じてこのIFRSタクソノミを使用することが可能です。</p> <p>2-2 EDINETタクソノミ利用時の場合との主な相違点</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 連結財務諸表等と個別財務諸表等の区別について <p>IFRSタクソノミでは、連結財務諸表等と個別財務諸表等の区別を行う場合、報告書インスタンスにおいて設定するコンテキストで区別するのではなくXBRL Dimensionsを使用します。XBRL Dimensionsに関する詳細は「6-2 XBRL Dimensions 関連の要素について」を参照して下さい。</p> ■ 注記表について <p>IFRSタクソノミでは注記表をXBRL形式で作成することが可能です。なお、既存のIFRSタクソノミに必要な注記表が存在しない場合、拡張リンクロールを新規に追加することで、任意の注記表を追加することも可能です。</p> 	No	文書名	1	XBRL Specification 2.1	2	XBRL Dimensions 1.0	3	FRTA (Financial Reporting Taxonomy Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)	4	GFM (Global Filing Manual) Version: 2010-10-12	5	企業別タクソノミ作成ガイドライン (その1) *
No	文書名																								
1	XBRL Specification 2.1																								
2	XBRL Dimensions 1.0																								
3	FRTA (Financial Reporting Taxonomies Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)																								
4	GFM (Global Filing Manual) Version: 2011-04-19																								
5	企業別タクソノミ作成ガイドライン (その1) *																								
No	文書名																								
1	XBRL Specification 2.1																								
2	XBRL Dimensions 1.0																								
3	FRTA (Financial Reporting Taxonomy Architecture) Recommendation-errata 2006-03-20 (以下「FRTA」という。)																								
4	GFM (Global Filing Manual) Version: 2010-10-12																								
5	企業別タクソノミ作成ガイドライン (その1) *																								

■ XBRL Dimensions の使用について

IFRSタクソノミでは、次のような情報を表現する場合にはXBRL Dimensionsを使用します。XBRL Dimensionsに関する詳細は「6-2 XBRL Dimensions関連の要素について」を参照してください。

- ・ 過年度遡及修正
- ・ セグメント情報
- ・ 企業結合
- ・ IFRS 初度適用時の調整表
- ・ 持分変動計算書
- ・ 純額・減価償却累計額・総額

■ XBRL Dimensions の使用について

IFRSタクソノミでは、次のような情報を表現する場合にはXBRL Dimensionsを使用します。XBRL Dimensionsに関する詳細は「6-2 XBRL Dimensions関連の要素について」を参照して下さい。

- ・ 個別財務諸表
- ・ 過年度遡及修正
- ・ 非継続事業 (※)
- ・ セグメント情報
- ・ 企業結合
- ・ IFRS 初度適用時の調整表
- ・ 持分変動計算書

※損益計算書等において、非継続事業に関する項目を利用する場合、XBRL Dimensionsを利用することに留意して下さい。

2-3 タクソノミの構造

2-3-1 IFRS タクソノミについて

IFRSタクソノミルート

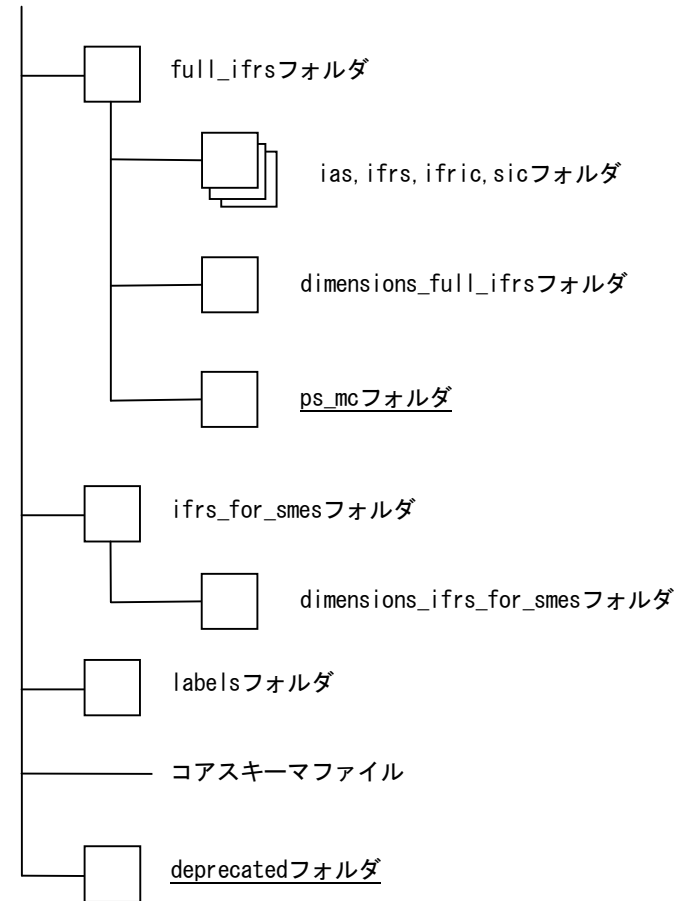


図 2-2 IFRS タクソノミの構造

・ ias, ifrs, ifric, sic フォルダ
(略)

・ ps_mc フォルダ

ps_mcフォルダには、マネジメントコメントリに関連した、表示・参照・ジェネリックラベル・ジェネリックリファレンスリンクベースファイルが格納されています。提出会社は、必要に応じて、ps_mcフォルダのIFRSタクソノミを利用してください。

・ dimensions_full_ifrs、dimensions_ifrs_for_smes フォルダ
(略)

2-3 タクソノミの構造

2-3-1 IFRS タクソノミについて

IFRSタクソノミルート

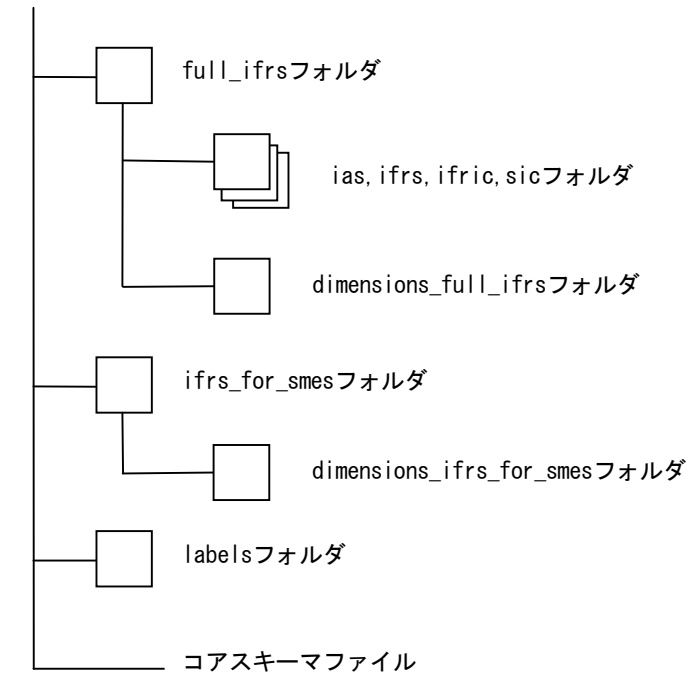


図 2-2 IFRS タクソノミの構造

・ ias, ifrs, ifric, sic フォルダ
(略)

・ dimensions_full_ifrs、dimensions_ifrs_for_smes フォルダ
(略)

- ・ labels フォルダ
(略)
- ・ コアスキーマファイル (ifrs-cor_{公開日}.xsd)
(略)

・ deprecated フォルダ

deprecatedフォルダにはIFRSの改訂により非推奨となったIFRSタクソノミが格納されています。deprecatedフォルダのIFRSタクソノミは原則として利用しないものです。

2-4 URL とインポート・参照関係について

2-4-1 URL

IFRSタクソノミの各ファイルのURLは、次のようになります。

http://xbrl.ifrs.org/taxonomy/{公開日}/ifrs-cor_{公開日}.xsd
 http://xbrl.ifrs.org/taxonomy/{公開日}/{フォルダ名}/{ファイル名}

2-4-2 インポート・参照関係

企業別タクソノミがIFRSタクソノミの各ファイルをインポート又は参照する場合、上記URLに基づいて絶対パスでインポート又は参照します。

3-2 企業別タクソノミの作成フロー

2. 使用する要素の決定及び設定(要素、名称リンクの追加)

IFRSタクソノミより、使用する要素を選択・決定します。IFRSタクソノミに適切な要素がない場合、提出会社は、企業別タクソノミ上で新規に要素を追加します。要素を追加した場合、合わせて名称リンクを企業別タクソノミに設定します。

なお、XBRL Dimensionsを利用する際には、Hypercube要素などの表を構成するために必要な要素の追加が必要となります。

※IFRSタクソノミ2011ではIFRSタクソノミ2010と異なり、提出会社がXBRL Dimensionsの要素以外を追加した場合に定義リンクの設定を行わないことに留意してください。

- ・ labels フォルダ
(略)
- ・ コアスキーマファイル (ifrs-cor_{公開日}.xsd)
(略)

2-4 URL とインポート・参照関係について

2-4-1 URL

IFRSタクソノミの各ファイルのURLは、次のようになります。

http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/ifrs-cor_{公開日}.xsd
 http://xbrl.iasb.org/taxonomy/{公開日}/{フォルダ名}/{ファイル名}

2-4-2 インポート・参照関係

企業別タクソノミがIFRSタクソノミの各ファイルをインポート又は参照する場合、上記URLに基づいて絶対パスでインポート又は参照します。

3-2 企業別タクソノミの作成フロー

2. 使用する要素の決定及び設定(要素、名称リンク、定義リンクの追加)

IFRSタクソノミより、使用する要素を選択・決定します。IFRSタクソノミに適切な要素がない場合、提出会社は、企業別タクソノミ上で新規に要素を追加します。要素を追加した場合、合わせて名称リンク、定義リンクを企業別タクソノミに設定します。

なお、XBRL Dimensionsを利用する際には、Hypercube要素などの表を構成するために必要な要素の追加が必要となります。

※IFRSタクソノミ2010ではIFRSタクソノミ2009と異なり、提出会社が要素を追加した場合に参照リンクの設定を行わないことに留意して下さい。

5-2 IFRS タクソノミのインポート・参照

企業別タクソノミスキーマファイルを作成した後、まずIFRSタクソノミのコアスキーマをインポートします。

次に、「4-1 IFRSタクソノミの選択」及び「4-2日本語ラベルの選択」で選択したコンポーネントに対応するリンクベースファイルのURLをlinkbaseRef要素のhref属性に設定します。その際、選択した拡張リンクロールに対応する表示リンク、定義リンク、計算リンク、参照リンク、ジェネリックラベルリンク、ジェネリックリファレンスリンクは全て参照します。さらに、選択した拡張リンクロールに対応するロールタイプスキーマをインポートします。

インポート又は参照の設定方法は、「2-4-2 インポート・参照関係」を参照してください。

注意：企業別タクソノミスキーマファイルはEDINETタクソノミや、EDINETタクソノミを拡張した企業別タクソノミのインポートを行わないものとします。

例1：IFRSタクソノミのコアスキーマのインポート

企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミのコアスキーマをインポートする場合
schemaLocation="ifrs-cor_{公開日}.xsd"

例2：IFRSタクソノミのリンクベースの参照

・企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミのリンクベース（[110000]の「財務諸表に関する全般的情報」の表示リンク）を参照する場合

href="http://xbrl. ifrs.org/taxonomy/{公開日}/full_ifrs/ias_1_{公開日}/pre_ias_1_{公開日}_role-110000.xml"

・企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミの日本語ラベルを参照する場合

href="http://xbrl. ifrs.org/taxonomy/{公開日}/labels/lab_ifrs-ja_{公開日}.xml"

5-2 IFRS タクソノミのインポート・参照

企業別タクソノミスキーマファイルを作成した後、まずIFRSタクソノミのコアスキーマをインポートします。

次に、「4-1 IFRSタクソノミの選択」及び「4-2日本語ラベルの選択」で選択したコンポーネントに対応するリンクベースファイルのURLをlinkbaseRef要素のhref属性に設定します。その際、選択した拡張リンクロールに対応する表示リンク、定義リンク、計算リンク、参照リンク、ジェネリックラベルリンク、ジェネリックリファレンスリンクはすべて参照します。さらに、選択した拡張リンクロールに対応するロールタイプスキーマをインポートします。

注意：企業別タクソノミスキーマファイルはEDINETタクソノミや、EDINETタクソノミを拡張した企業別タクソノミのインポートを行わないものとします

例1：IFRSタクソノミのコアスキーマのインポート

企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミのコアスキーマをインポートする場合
schemaLocation="http://xbrl. iasb.org/taxonomy/{公開日}/ifrs-cor_{公開日}.xsd"

例2：IFRSタクソノミのリンクベースの参照

・企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミのリンクベース（[110000]の「財務諸表に関する全般的情報」の表示リンク）を参照する場合

href="http://xbrl. iasb.org/taxonomy/{公開日}/full_ifrs/ias_1_{公開日}/pre_ias_1_{公開日}_role-110000.xml"

・企業別タクソノミスキーマファイルがIFRSタクソノミの日本語ラベルを参照する場合

href="http://xbrl. iasb.org/taxonomy/{公開日}/labels/lab_ifrs-ja_{公開日}.xml"

6-2 XBRL Dimensions 関連の要素について

XBRL Dimensionsを使用する場合、以下に示すような要素が必要です。

例えば、A地域及びB地域について、地域別及び合計の売上と原価を表す場合、定義リンク（及び表示リンク）に出現する要素は図 6-1のようになります。

※IFRSタクソノミ2011では、IFRSタクソノミ2010と異なり、XBRL DimensionsのDefault要素が拡張リンクロール「[990000] Axis - Defaults」に集約されていることに留意してください。

	地域		
	A地域	B地域	(合計)
売上	1,000	2,000	3,000
原価	300	500	800

(親要素)					
└売上	}	...	Primary item		
└原価		...	Hypercube要素		
└地域別		...	Dimension要素		
└地域		└地域(合計)	...	Domain	
		└A地域	}	...	Member
		└B地域			

図 6-1 XBRL Dimensions の使用例

6-2 XBRL Dimensions 関連の要素について

XBRL Dimensionsを使用する場合、以下に示すような要素が必要です。

例えば、A地域及びB地域について、地域別及び合計の売上と原価を表す場合、定義リンク（及び表示リンク）に出現する要素は図 6-1のようになります。

	地域		
	A地域	B地域	(合計)
売上	1,000	2,000	3,000
原価	300	500	800

(親要素)					
└売上	}	...	Primary item		
└原価		...	Hypercube要素		
└地域別		...	Dimension要素		
└地域		└地域(合計)	...	Domain	
		└A地域	}	...	Member
		└B地域			
		└地域(合計)	...	Default	

図 6-1 XBRL Dimensions の使用例

表 6-1 1軸のXBRL Dimensionsで用いる要素の概略

No	要素の種類	概略	各要素に関する設定時に特に注意を要する箇所(※)
1	Primary item	XBRL Dimensionsによる表における主たる軸を構成する要素です。インスタンスにおいては、これらの要素に対して、Member毎の値を入力することになります。 図6-1における「売上」及び「原価」の各要素が該当します。	
2	Hypercube要素	XBRL Dimensionsによる表の設定を宣言するための要素です。Primary itemの親要素に対して設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 標準ラベル 代替グループ 定義リンク
3	Dimension要素	XBRL Dimensionsによる表において従たる軸（Primary item以外の軸）を設定するための要素です。	<ul style="list-style-type: none"> 標準ラベル 代替グループ 定義リンク
4	Domain	Primary item以外の軸の構成要素の親要素です。Dimension要素で表される各軸に対して必ず設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 定義リンク
5	Default	Context中にMemberが設定されていない場合、 <u>Default値が設定されているのと同値とみなされます。</u> 原則として軸の構成要素の合計を表します。 図6-1における「地域（合計）」が該当しますが、 <u>Default専用の拡張リンクロールに別途定義されています。</u>	<ul style="list-style-type: none"> 定義リンク
6	Member	軸の構成要素です。 図6-1における「A地域」及び「B地域」の各要素が該当します。	<ul style="list-style-type: none"> 定義リンク

※各要素の設定の詳細は「7. 要素の追加」以降の各項目を参照してください。

表 6-1 1軸のXBRL Dimensionsで用いる要素の概略

No	要素の種類	概略	各要素に関する設定時に特に注意を要する箇所(※)
1	Primary item	XBRL Dimensionsによる表における主たる軸を構成する要素です。インスタンスにおいては、これらの要素に対して、Memberごとの値を入力することになります。 図6-1における「売上」、「原価」の各要素が該当します。	
2	Hypercube要素	XBRL Dimensionsによる表の設定を宣言するための要素です。Primary itemの親要素に対して設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 標準ラベル 代替グループ 定義リンク
3	Dimension要素	XBRL Dimensionsによる表において従たる軸（Primary item以外の軸）を設定するための要素です。	<ul style="list-style-type: none"> 標準ラベル 代替グループ 定義リンク
4	Domain	Primary item以外の軸の構成要素の親要素です。Dimension要素で表される各軸に対して必ず設定します。 <u>「Default」と同じ要素を用います。</u>	<ul style="list-style-type: none"> 定義リンク
5	Default	軸の構成要素の合計を表します。 <u>「Domain」と同じ要素を用います。</u> 図6-1における「地域（合計）」が該当します。	<ul style="list-style-type: none"> 定義リンク
6	Member	軸の構成要素です。 図6-1における「A地域」、「B地域」の各要素が該当します。	<ul style="list-style-type: none"> 定義リンク

※各要素の設定の詳細は「7. 要素の追加」以降の各項目を参照して下さい。

7. 要素の追加

7-3 データ型 (type)

企業別タクソノミにおいて追加する要素には、当該要素が持つ値に応じたデータ型を設定します。金額を値として持つ場合はデータ型「monetaryItemType」、株式数の場合は「sharesItemType」、日付の場合は「dateItemType」、それ以外の数値の場合は「decimalItemType」をそれぞれ設定します。文字列を値として持つ要素、見出しとして値を持たない要素、Hypercube要素及びDimension要素には、「stringItemType」を設定します。Domain、Memberには「domainItemType」を設定します。

また、必要に応じてXBRL Specification 2.1に定義されているデータ型や、Data Type Registry (以下「DTR」という。)に登録されているデータ型を利用することが可能です。DTRは、XBRL Internationalによって公開されています。詳細は、XBRL InternationalのWebサイト (<http://www.xbrl.org/dtr/>) を参照してください。

※IFRSタクソノミ2011では、IFRSタクソノミ2010と異なり、テキストブロックとして値を持つ要素のデータ型が「escapedItemType」から、「textBlockItemType」に変更されていることに留意してください。

7-5 貸借区分 (balance 属性)

企業別タクソノミにおいて追加する要素のうちデータ型「monetaryItemType」のものには、原則として貸借属性を設定します。設定はIFRSタクソノミの既存要素に準じるものとし、おおむね以下のようになります。

財政状態計算書、損益計算書及び包括利益計算書においては、借方項目に「debit」、貸方項目に「credit」をそれぞれ設定します。ただし、控除項目では逆の設定となり、自己株式に「debit」を設定します。

持分変動計算書においては、持分の増加項目に「credit」、減少項目に「debit」をそれぞれ設定します。ただし、持分の控除項目である自己株式に関する項目は逆の設定となり、自己株式の増加項目に「debit」、減少項目に「credit」をそれぞれ設定します。

キャッシュ・フロー計算書においては、収入項目に「debit」、支出項目に「credit」をそれぞれ設定しますが、間接法における営業活動によるキャッシュ・フロー内の損益調整項目は、原則として「debit」を設定します。

基本財務諸表のほか注記においても、IFRSタクソノミの既存要素の設定に準じて設定します (例: 「棚卸資産の評価減 (戻入れ)」に「credit」を設定します)。

7. 要素の追加

7-3 データ型 (type)

企業別タクソノミにおいて追加する要素には、当該要素が持つ値に応じたデータ型を設定します。金額を値として持つ場合はデータ型「monetaryItemType」、株式数の場合は「sharesItemType」、日付の場合は「dateItemType」、それ以外の数値の場合は「decimalItemType」を設定します。文字列を値として持つ要素、見出しとして値を持たない要素、Hypercube要素、Dimension要素には、「stringItemType」を設定します。Domain、Memberには「domainItemType」を設定します。

また、必要に応じてXBRL Specification 2.1に定義されているデータ型や、Data Type Registry (以下「DTR」という。)に登録されているデータ型を利用することが可能です。DTRはXBRL Internationalによって公開されています。詳細は、XBRL InternationalのWebサイト (<http://www.xbrl.org/dtr/>) を参照して下さい。

7-5 貸借区分 (balance 属性)

企業別タクソノミにおいて追加する要素のうちデータ型「monetaryItemType」のものには、原則として貸借属性を設定します。設定はIFRSタクソノミの既存要素に準じるものとし、概ね以下のようになります。

財政状態計算書、損益計算書及び包括利益計算書においては、借方項目は「debit」、貸方項目は「credit」を設定します。但し控除項目では逆の設定となり、自己株式は「debit」となります。

持分変動計算書においては、持分の増加項目は「credit」、減少項目は「debit」を設定します。但し持分の控除項目である自己株式に関する項目は逆の設定となり、自己株式の増加項目は「debit」、減少項目は「credit」となります。

キャッシュ・フロー計算書においては、収入項目は「debit」、支出項目は「credit」を設定しますが、間接法における営業活動によるキャッシュ・フロー内の損益調整項目は、原則として「debit」を設定します。

基本財務諸表のほか注記においても、IFRSタクソノミの既存要素の設定に準じて設定します (例: 有形固定資産に関する注記の各減価償却累計額は「credit」となります)。

8. 名称リンクの設定

表 8-1 設定対象のラベルロールの一覧

No	名称	ラベルロール	説明	要否	言語
1	標準ラベル	label ^{※1}	標準に設定するラベル	◎	日・英
2	合計ラベル	totalLabel ^{※1}	合計を表すラベル	○	日・英
3	期首ラベル	periodStartLabel ^{※1}	期首を表すラベル	○	日・英
4	期末ラベル	periodEndLabel ^{※1}	期末を表すラベル	○	日・英
5	略称ラベル	terseLabel ^{※1}	略称を表すラベル	○	日・英
6	負値ラベル	negativeLabel ^{※1}	負値を表すラベル	○	日・英
7	正値ラベル	positiveLabel ^{※1}	正値を表すラベル	○	日・英
8	純額ラベル	netLabel ^{※2}	純額を表すラベル	○	日英
9	符号反転標準ラベル	negatedLabel ^{※2}	符号反転の標準ラベル	○	日・英
10	符号反転合計ラベル	negatedTotalLabel ^{※2}	符号反転の合計ラベル	○	日・英
11	符号反転期首ラベル	negatedPeriodStartLabel ^{※2}	符号反転の期首ラベル	○	日・英
12	符号反転期末ラベル	negatedPeriodEndLabel ^{※2}	符号反転の期末ラベル	○	日・英
13	符号反転略称ラベル	negatedTerseLabel ^{※2}	符号反転の略称ラベル	○	日・英

※1: “http://www.xbrl.org/2003/role/” に続くロールの名称のみを記載。

※2: “http://www.xbrl.org/2009/role/” に続くロールの名称のみを記載。

凡例 ◎: 必須 ○: 要素の性質に応じて設定

8-2-5 負値・正値ラベルの設定

金額の正負に従って名称が異なる要素に対しては、正値を表す名称を正値ラベルに、負値を表す名称を負値ラベルに、正値と負値の両方に対応した名称を標準ラベルにそれぞれ設定します。

EDINETタクソノミで用意されていた正値負値ラベルは、IFRSタクソノミでは使用できません。

8-2-6 合計・純額ラベルの設定

「～合計」のような集計を表す要素に対しては、「合計」等が付かない名称を標準ラベルに、「合計」等が付く名称を合計ラベルにそれぞれ設定します。

また、キャッシュ・フローの純増減項目など、純額概念を持つ要素に対しては、「正味」等が付かない名称を標準ラベルに、「正味」等が付く名称を純額ラベルにそれぞれ設定します。

8. 名称リンクの設定

表 8-1 設定対象のラベルロールの一覧

No	名称	ラベルロール	説明	要否	言語
1	標準ラベル	label ^{※1}	標準に設定するラベル	◎	日・英
2	合計ラベル	totalLabel ^{※1}	合計を表すラベル	○	日・英
3	期首ラベル	periodStartLabel ^{※1}	期首を表すラベル	○	日・英
4	期末ラベル	periodEndLabel ^{※1}	期末を表すラベル	○	日・英
5	略称ラベル	terseLabel ^{※1}	略称を表すラベル	○	日・英
6	負値ラベル	negativeLabel ^{※1}	負値の場合のラベル	○	日・英
7	正値ラベル	positiveLabel ^{※1}	正値の場合のラベル	○	日・英
8	純額ラベル	netLabel ^{※2}	純額を表すラベル	○	日・英
9	符号反転標準ラベル	negatedLabel ^{※2}	符号反転の標準ラベル	○	日・英
10	符号反転合計ラベル	negatedTotalLabel ^{※2}	符号反転の合計ラベル	○	日・英
11	符号反転期首ラベル	negatedPeriodStartLabel ^{※2}	符号反転の期首ラベル	○	日・英
12	符号反転期末ラベル	negatedPeriodEndLabel ^{※2}	符号反転の期末ラベル	○	日・英
13	符号反転略称ラベル	negatedTerseLabel ^{※2}	符号反転の略称ラベル	○	日・英

※1: “http://www.xbrl.org/2003/role/” に続くロールの名称のみを記載。

※2: “http://www.xbrl.org/2009/role/” に続くロールの名称のみを記載。

凡例 ◎: 必須 ○: 要素の性質に応じて設定

8-2-5 負値・正値ラベルの設定

金額の正負に従って名称が異なる要素に対しては、正の場合の名称を正値ラベルに、負の場合の名称を負値ラベルに、正値と負値の両方に対応した名称を標準ラベルに設定します。

EDINETタクソノミで用意されていた正値負値ラベルは、IFRSタクソノミでは使用できません。

8-2-6 合計・純額ラベルの設定

「～合計」のような集計を表す要素に対しては、「合計」等が付かない名称を標準ラベルに、「合計」等が付く名称を合計ラベルに設定します。

また、有形固定資産の純額項目、キャッシュ・フローの純額項目など、純額を表す要素に対しては、「純額」等が付かない名称を標準ラベルに、「純額」等が付く名称を純額ラベルに設定します。

9. 定義リンクの設定

9-1 定義リンクについて

XBRL Dimensionsの要素を追加した場合又は表示順序等の変更をする場合、本章で記載する定義リンクの設定を行います。定義リンクでは、IFRSタクソノミで定義されている勘定科目と提出会社が追加した要素との関連付けを行います。

9-2 定義リンクの設定

定義リンクの設定とは、次のことをいいます。

(削除)

- 「4. 企業別タクソノミの DTS の決定」 から「8. 名称リンクの設定」 までに設定した XBRL Dimensions 関連の要素の定義リンクへの追加及び各種 XBRL Dimensions に関する設定（「9-2-2 XBRL Dimensions の設定」参照）
- IFRS タクソノミの定義リンクの設定内容（XBRL Dimensions の表示順序等）に対し、企業別タクソノミの定義リンクによる上書き（「9-3-1 定義リンクの上書きについて」参照）

(削除)

9. 定義リンクの設定

9-1 定義リンクについて

要素の追加又はXBRL Dimensionsの表示順序等の変更をする場合、本章で記載する定義リンクの設定を行います。定義リンクでは、IFRSタクソノミで定義されている勘定科目と提出会社が追加した要素との関連付けを行います。

9-2 定義リンクの設定

定義リンクの設定とは、次のことをいいます。

- 「4. 企業別タクソノミの DTS の決定」 から「8. 名称リンクの設定」 までに設定した勘定科目の企業別タクソノミの定義リンクへの追加（「9-2-2 XBRL Dimensions 以外の要素の定義リンクへの追加方法」参照）
- 「4. 企業別タクソノミの DTS の決定」 から「8. 名称リンクの設定」 までに設定した XBRL Dimensions 関連の要素の定義リンクへの追加及び各種 XBRL Dimensions に関する設定（「9-2-3 XBRL Dimensions の設定」参照）
- IFRS タクソノミの定義リンクの設定内容（XBRL Dimensions の表示順序等）に対し、企業別タクソノミの定義リンクによる上書き（「9-3-1 定義リンクの上書きについて」参照）

9-2-2 XBRL Dimensions 以外の要素の定義リンクへの追加方法

新規に要素を追加した場合、企業別タクソノミの定義リンクベースファイルに要素の定義関係を設定することを必須とします。

企業別タクソノミの定義リンクを設定する場合、該当する財務諸表の区分に応じて、以下の例のように設定します。

(例) 流動負債に「A引当金」を追加する場合

流動負債 [タイトル項目]

上

上 A引当金 ←新規に追加する要素

上

要素の区分を定義する場合、以下の標準アーキロールを用いて定義します。

<http://www.xbrl.org/2003/arcrole/domain-member>

また、定義リンクにおいては要素間の定義関係のorder属性を設定します。order属性には0以上の任意の数値(小数も可)を設定できます。親の勘定科目が同一である定義リンクは、その中でorder属性は一意になるように設定します。

9-2-2 XBRL Dimensions の設定

表 9-1 XBRL Dimensions の設定

No	親要素	子要素	アークロール	属性の設定
1	Primary itemの親要素	Primary itm	domain-member ^{※1}	
2	Primary itemの親要素	Hypercube要素	all ^{※1}	closed属性：原則として「True」 contextElement属性：「scenario」
3	Hypercube要素	Dimension要素	hypercube-dimension ^{※1}	他の拡張リンクロールのDimension要素、Domain、Memberを共通的に使用する場合、当該Dimension要素を設定し、TargetRole属性に当該他の拡張リンクロールを指定する。
	Dimension要素	Domain	dimension-domain ^{※1}	
5	Domain	Member	domain-member ^{※1}	

※1：“http://xbrl.org/int/dim/arcrole/” に続くアークロールの名称のみを記載。

※IFRSタクソノミ2011では、IFRSタクソノミ2010と異なり、XBRL DimensionsのDefault要素が拡張リンクロール「[990000]

Axis - Defaults」に集約されていることに留意してください。

10-2 表示リンクの設定

表示リンクを設定する前に、必ず次の作業を終了させてください。

- DTS の確定（「4. 企業別タクソノミのDTSの決定」及び「5. スキーマファイルの作成」参照）
- IFRSタクソノミの使用する要素の決定（「6. 使用する要素の決定」参照）
- 要素と名称の追加設定（「7. 要素の追加」及び「8. 名称リンクの設定」参照）
- XBRL Dimensionsの要素追加時の定義リンクの設定（「9. 定義リンクの設定」参照）

11-2 計算リンクの設定

計算リンクを設定する前に、必ず次の作業を終了させてください。

- DTS の確定（「4. 企業別タクソノミのDTSの決定」及び「5. スキーマファイルの作成」参照）
- IFRSタクソノミの使用する要素の決定（「6. 使用する要素の決定」参照）
- 要素と名称の追加設定（「7. 要素の追加」及び「8. 名称リンクの設定」参照）
- XBRL Dimensionsの要素追加時の定義リンクの設定（「9. 定義リンクの設定」参照）

9-2-3 XBRL Dimensions の設定

表 9-1 XBRL Dimension の設定

No	親要素	子要素	アークロール	属性の設定
1	Primary itemの親要素	Primary item	domain-member ^{※1}	
2	Primary itemの親要素	Hypercube要素	all ^{※1}	closed属性：原則として「True」 contextElement属性：「scenario」
3	Hypercube要素	Dimension要素	hypercube-dimension ^{※1}	他の拡張リンクロールのDimension要素、Domain、Memberを共通的に使用する場合、当該Dimension要素を設定し、TargetRole属性に当該他の拡張リンクロールを指定する。
4	Dimension要素	Domain	dimension-domain ^{※1}	
5	Dimension要素	Default	dimension-default ^{※1}	
6	Domain	Member	domain-member ^{※1}	

※1：“http://xbrl.org/int/dim/arcrole/” に続くアークロールの名称のみを記載。

10-2 表示リンクの設定

表示リンクを設定する前に、必ず次の作業を終了させて下さい。

- DTS の確定（「4. 企業別タクソノミのDTSの決定」、「5. スキーマファイルの作成」参照）
- IFRSタクソノミの使用する要素の決定（「6. 使用する要素の決定」参照）
- 要素と名称の追加設定（「7. 要素の追加」、「8. 名称リンクの設定」参照）
- 要素追加時の定義リンクの設定（「9. 定義リンクの設定」参照）

11-2 計算リンクの設定

計算リンクを設定する前に、必ず次の作業を終了させて下さい。

- DTS の確定（「4. 企業別タクソノミのDTSの決定」、「5. スキーマファイルの作成」参照）
- IFRSタクソノミの使用する要素の決定（「6. 使用する要素の決定」参照）
- 要素と名称の追加設定（「7. 要素の追加」、「8. 名称リンクの設定」参照）
- 要素追加時の定義リンクの設定（「9. 定義リンクの設定」参照）

12-1 持分変動計算書

持分変動計算書は、純資産の勘定科目と変動事由の組合せで、論理的にマトリックス形式であると考えことができ、他の財務諸表とは異なる対応が必要となります。

IFRSタクソノミでは、持分変動計算書はXBRL Dimensionsを使用して表現されます。

具体的には、純資産の勘定科目と遡及適用及び遡及的修正再表示の内訳項目とがDimension要素（「資本の内訳 [軸]」並びに「遡及適用及び遡及的修正再表示 [軸]」）のMemberで、変動事由がPrimary itemでそれぞれ表されます。

12-1-1 項目追加時の各リンクベースの設定

純資産の勘定科目を追加する場合はMemberとして表示リンク及び定義リンクに要素を追加し、変動事由を追加する場合はPrimary itemとして表示リンク、計算リンク及び定義リンクに要素を追加します。

12-1 持分変動計算書

持分変動計算書は、純資産の勘定科目と変動事由の組み合わせで、論理的にマトリックス形式であると考えことができ、他の財務諸表とは異なる対応が必要となります。

IFRSタクソノミでは、持分変動計算書はXBRL Dimensionsを使用して表現されます。

具体的には、純資産の勘定科目がDimension要素（「資本の内訳 [軸]」）のMember、変動事由がPrimary itemで表わされます。

12-1-1 項目追加時の各リンクベースの設定

純資産の勘定科目を追加する場合はMemberとして、変動事由を追加する場合はPrimary itemとして、表示リンク・計算リンク・定義リンクに要素を追加します。